

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1階 )

事業所番号	0270201270		
法人名	医療法人 鶴豊会		
事業所名	認知症対応型共同生活事業 グループホームさくらばやし		
所在地	青森県弘前市桜林町3番地1号		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあり多くの公共施設も近い場所に位置し、建物は住宅街の雰囲気にマッチしているの、家族や近隣の住民も出入りしやすい雰囲気です。また、当法人では介護老人保健施設や診療所・ヘルパーステーションを運営しており、組織運営上の連携体制の他に各施設に配属されている職員同士で助言・指導を日常的に行いながら利用者のサービス向上や運営の円滑化を図っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成23年2月15日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の関連事業所である病院・介護老人保健施設・訪問介護事業所が持っている特性を活かし、職員間での連携体制が整っている。職員は事業所の理念を共有して、利用者の思いを尊重しながら日常のケアに当たっている。出された意見には迅速に対応しサービスの質の向上に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>朝のミーティングにて理念を確認している。また、サービス提供に実践できるようにケアプランに反映させている。</p>	<p>地域の中で「穏やかで安らぎのある自由な暮らし」「自分らしさや誇りを保てる暮らし」「自分で行動できる喜びと達成感のある暮らし」という独自の理念を掲げ、全職員に周知しており、日々の業務に反映している。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣の幼稚園との交流や、近隣の美容院・床屋(町会長が経営)を利用し、事業所を知ってもらう働きかけをしている。</p>	<p>近隣の幼稚園との交流や町会のねぶた運行の見学等、近隣住民とのふれあいの場として気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。近隣の理美容店へ出向き、地域住民に理解してもらう機会を作っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>プライバシーを守る事を説明し、実習生の受け入れや学生のボランティア活動の受け入れを実施している。</p>	/	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議のお知らせを家族に確実に見てもらえるように請求書と一緒に送っている。また、会議では外部評価の結果を報告し町会・家族からの意見を得ている。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、家族が参加しやすい曜日や時間を設定し、メンバーが参加しやすい工夫をしている。自己評価及び外部評価の結果を説明している。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には市の職員、または地域包括支援センターの職員が必ず参加している。広報誌も配布すると共に、不明なことは市の担当者に連絡し、事業所の状況を知ってもらうようにしている。</p>	<p>運営推進会議には市役所職員か地域包括支援センター職員のどちらか1名は必ず参加しており、広報誌も配布している。困難事例等はその都度相談し、連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>定期的に内部研修を行い、その都度再確認し、身体拘束のないケアを心掛けている。また、帰宅願望等、利用者の特徴を把握し、鍵をかけずに職員が対応している。</p>	<p>個々の特性を十分観察し、身体拘束を行わない方針で対応している。玄関は外部からは自由に入出りできるが、内部からは扉の最上部操作にて開錠するようになっており、その旨入所時に家族へ説明している。無断外出に備え、玄関にはセンサーのチャイムで感知できるようにになっており、町内会・婦人部へも協力体制を働きかけている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を実施し、虐待防止を理解すると共に、虐待と感じられる事があった時は速やかに管理者に報告し、防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修で権利擁護について学ぶ機会を設けている。必要に応じ家族へも情報提供するようにしている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>不安が生じないように相手の立場に立って説明することを心掛けている。不明な事や疑問がないか確認している。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常のケアの中で利用者の意見・不満に耳を傾けるようにしている。家族へも定期的に情報提供し、必要に応じて受診する時は家族の要望や意見を聞いている。</p>	<p>毎日のサービスの提供の中で、利用者から意見を聞いたり、変化を観察している。家族へは意見が出しやすいように定期的に暮らしぶりについて情報提供している。重要事項説明書へ苦情受付窓口を明記し、意見箱も設置している。苦情や意見に速やかに対応できる体制を整えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議の内容を日誌や会議録に記載し、法人へ提出している。職員の異動があった時は利用者の状況報告を密にし、利用者・職員の負担軽減に努めている。	三ヶ月毎の職員の評価時や職員会議や申し送り時等で意見を聞く機会を設けており、出された意見は速やかに話し合い、運営に反映させる仕組みとなっている。母体施設との異動は申し送りを密に行うことで利用者に影響がないように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から職務能力評価を実施し、努力や実績等が反映できるようにしている。また、健康診断結果で異常があった時は、その後の経過報告をしてもらい健康維持に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、職員全員が研修できるようにしている。外部研修は法人本部へ申請し、許可を得て参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の医院や介護老人保健施設、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所と各施設の機能を活かした交流や連携を図っており、サービスの質の向上や職員の育成に役立てている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安・要望に耳を傾けながらサービス内容を説明するようにしている。また、家族の利用者に対する思いを聞き、利用者との関係作りに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や思いに耳を傾ける事を意識しながら話を聞いている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には困っていることを聞きながら必要なサービスを見極め、入居の他にも法人内の他のサービスや他の事業所にも連携できる事を説明している。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の意思を尊重しながら食事の盛り付けや後片付け、掃除等、共同作業で日常生活を送り、信頼関係を築いている。			
19	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況報告を家族にし、日用品の補充や通院等家族に協力を依頼し、共に支える関係を築いている。			
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴や趣味の把握に努め、馴染みの物を置いてもらっている。希望に応じて手紙や電話での交流も図っている。	入所時のアセスメントにて利用者の生活歴等を把握している。また、家族等の面会を利用し、馴染みの関係や場所について詳細に把握するよう努めている。手紙や電話を利用しての交流の支援も行っている。馴染みの場へ出かけられるよう配慮している。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性やできることを把握し、トラブルや孤立がないように職員が配慮している。また、利用者間の関わりが持てるようコミュニケーションを促している。			
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先に今までの情報提供をすることを家族に伝え、不安の軽減に努めている。退所後も相談や情報提供を必要に応じて継続する事も伝えている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりや家族の情報等から利用者の視点に立った意向の把握に努めている。	入所時には本人・家族の意向を確認し、入所後もそれぞれの変化に対応するためにコミュニケーションを密に行っている。本人に関わっていた全ての人を対象に情報収集が行われ、利用者の視点に立った意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いを把握するために家族歴・生活歴の把握に努め、家族の協力も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・睡眠・排泄状況等を記録や申し送り等で把握し、職員間でも気付いた事を話し合うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は出来るだけ本人・家族に確認しながら行っている。また、三ヶ月に1回の定期評価でモニタリングをし、利用者の状況の変化に対応している。	詳細なアセスメントを行い本人・家族の意向を必ず確認している。全職員で話し合いながら利用者本位の個別具体的な計画を作成している。定期的にモニタリングを行い、必要時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・連絡簿を活かし、ミーティングにおいて情報を共有・確認し、実践や計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域包括支援センターや消防団への運営推進会議への参加を呼びかけ、地域の情報を得ると共に安全な生活を送れるようにしている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>継続的な支援が出来るように、情報提供しながら支援している。</p>	<p>これまでの受診状況を確認し、継続的に受診できるよう支援している。受診結果は家族や医療機関とも共有化されている。法人内の病院へいつでも相談できる体制となっている。受診結果は報告し、記録に残して家族と共有化している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者それぞれに医療的にどこにポイントをおいて観察するかを看護職員よりチェックしてもらいながら報告・相談している。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は情報提供すると共に退院に向けての相談も行っている。家族からの情報収集も行なっている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人と家族の意向を確認し、職員間の連携・医療機関との連携がそれぞれ出来るように意思統一に努めている。</p>	<p>重度化や終末期には対応されていないが、法人内の病院と連携しながら利用者の意向を尊重できるように意思統一が図られている。</p>		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人での救急処置の研修に全員が参加している。		/	
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の避難訓練を実施すると共に、運営推進会議のなかで地域の方々へ協力をお願いしている。		昼夜の避難誘導策が整備されており、昼夜を想定した避難訓練を年2回実施している。地域住民への理解や協力は運営推進会議を通じて働きかけが行われている。事業所独自に物品・食料等を用意するには至っていない。	災害発生時に備えて事業所独自で物品や食料を備蓄しておくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように一人ひとりの特徴を把握しながら言葉かけ・対応をするように配慮している。職員は守秘義務を理解している。		利用者個々の生活歴等を確認しながら適切な声かけを実践している。羞恥心に配慮し、居室のカーテンを利用してプライバシーの確保に努めている。個人情報とは特定の場所に保管し、管理を徹底している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との関わりから思いを把握できるように努めている。また、言葉だけでなく行動や表情から希望を汲み取るようにしている。		/	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康状態を損ねる事がないようしながら、出来るだけ希望に沿うように柔軟に対応している。		/	
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら、季節感を出した服装にしている。美容院等も家族の協力を得ながら実施している。		/	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮しながら準備や後片づけ等、出来ることは職員と一緒にやっている。また、食事が楽しめるような雰囲気を作っている。	利用者の嗜好を把握し、代替食で対応できるものは変更している。業者委託なので月1回、調理の日を設け、利用者もできることは一緒に行っている。食事時には会話しながら見守りや介助が行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりバランスやカロリーが計算されている。状況に応じて副食を細かくしたり、お粥にする等、配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りや介助で本人の状態に応じて実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄表を設け、排泄パターンや排泄状況を把握しながら自立支援を行っている。	個人の排泄表を記録し、その人に合わせて自立に向けて支援している。利用者の羞恥心やプライバシーに配慮しながら声がけ等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排泄状態を把握すると共に、便秘の方には乳酸飲料や水分摂取を促している。また、日課に体操を取り入れている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態や希望に合わせた入浴に配慮しているが、曜日や時間帯はほぼ決めている状態である。	入浴は週3回で、利用者の体調には十分留意し、適切な支援を行っている。入浴を拒否する利用者には声がけする職員を変えたり、家族に協力してもらったりと対応を工夫している。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活パターンを把握する事で安眠・休息を支援している。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書を基に理解し、不明な時は医療関係者に確認している。また、服薬チェック表を設け、間違いの無いようにしている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・毎日のケアの中から役割や楽しみごとの把握に努め支援している。			
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や余暇活動の一環として、家族の協力を得ながら外出する機会を設けるようにしている。	近隣の公園へ散歩に出かけたり、法人内の他施設へ出かけて畳の部屋で過ごす等、気分転換を図っている。外出は個別に計画を立てて利用者の希望に沿うよう支援している。無理強いせず、その日の体調に合った対応に努めている。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の状況に応じて支援している。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、電話が出来るようにしている。手紙のやり取りは郵便局へ行く等、援助している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ベランダや庭に椅子を置き、天気の良い日は利用したり、玄関・廊下に季節感のある物を飾ったりしてゆったりと季節を感じてもらえるようにしている。	ベランダに椅子を置き、くつろげる空間がある。玄関・廊下には季節を感じられるような飾り付けがされている。テレビの音量等は適切で、各部屋にエアコンが設置され、毎日4回温度・湿度管理が行われている。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	共有空間で自由に自分の居場所を見つけている。また、互いの居室を訪問している事もある。			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	使い慣れたものをできるだけ居室に持ってきてもらい、自分らしい雰囲気を出してもらっている。設置している家具は暖かな色彩を使用している。	使い慣れたものをできるだけ持ち込むように家族に促している。居室内には自分で作った物を飾ったり、物干しを配置する等、利用者一人ひとりに合った工夫が見られる。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	トイレまでの誘導テープ、居室前の名札、目に付きやすい場所にカレンダーを置く等、安全な環境づくりに工夫をしている。			